



はまり体験こそ集中力増大中



東大生の92%が子ども時代に”熱中体験”をもつ！？



こんな話を聞いたことがありますか？東大生・東大卒業生50名に子どもの頃の生活習慣をアンケート調査をしたところ、「幼い頃に打ち込んでいたもの、熱中していたものはありますか？」という項目で、92%もの人が「はい」と回答した。内容は、スポーツ、読書、楽器、ゲーム、アイドル、自然体験など。脳科学的にも熱中体験が良いと言われています。好奇心を原動力に物事を突き詰めていくことでやる気を出すドーパミンと呼ばれる神経物質が放出され、脳を大いに刺激し、それによって脳の神経細胞間のネットワークが育ち、脳のいろいろな部分の体積が大きくなるそうです。また、何かに熱中してやり切ると、そのストラテジー（戦略）が身につく、国語や算数であっても、知らないことを知るためにはどうすればいいか、どういう人に聞けばいいかということがわかるようになります。そして、よりスムーズに知識を吸収し、勉強を楽しめるようになっていきます。

こんな方法が有効です！



★本物を見せ、バーチャルとリアルをつなげる★

子どもが図鑑や本で何かに興味を持ったら、親はすぐに本物を見せましょう。リアルとバーチャルをつなげる体験を繰り返すうちに、知的好奇心の土台ができあがり、脳がぐんぐんと伸びて成績も上がっていくといわれています。

★★親自身も楽しむことが子どもに刺激になる★★

脳には、まねすることに特化する領域があるため、親が楽しんでやっていたら、子どももいっしょにやりたがる傾向があります。ただ、生物図鑑を買い与えるだけでなく、休日には親もいっしょに野山で網を持って蝶を追いかけることで、子どもの知的好奇心もよりいっそう伸びます。

世の中には面白いものであふれています。子どもが特にはまりやすいといえば、ゲーム！！！！！！
ゲームにはまってしまうとどうなるでしょうか。こんな驚きのNEWSを見つけたので、ご紹介いたします。
オンラインゲームなどのやり過ぎで日常生活が難しくなる「ゲーム障害」を世界保健機関（WHO）が疾病と認めた。
「ネット依存」疑いがある人は国内に500万人ほどおり、中高生の14%にあたる約93万人がゲームなどのネット依存の恐れがあると言われている。



自分の夢中になれることが何か一つでも見つかったら自分の人生に良い影響をもたらすと思います。
今は、習い事の種類の豊富で選択できる範囲が広がってきています。どんな習い事が自分に合うかは、やってみないと分からない部分も多いかと思います。しかし、今皆さんはイトマンに通っているのです、夢中になれるものの中の一つにイトマンが入っていると思います。今までイトマンを辞めずに上級クラスまで続けられ、1級合格して卒業ができると、夢中になって頑張ったということが認められるのです。
この先、どんな困難がまっているかはわかりませんが、今、夢中になって頑張れた人は、今後もどんな困難がたちはだかろうとも自分で正しい答えを見つけて最後までやり遂げることができるようになっていくと思います。お子様の未来を輝かしいものにするために、イトマンスイミングスクール一同は、全力でサポートさせていただきます。一緒に頑張っていきましょう！

